



大計

キングダムの信はあの若さで「俺は天下の大將軍になる」と叫ぶ。ONE PIECEの主人公の決め台詞は幼い頃から「海賊王におれはなる!!」だ。あの人はあの人の個性でしか成し得ない自分史上最高の幸せの形を事ある毎に唱えるのである。素晴らしい。何と理にかなった行いか。大計である。

人生は長いようで大計を成すには実は短い。用意周到に臨む必要がある。その為、インドや中国の一部では古来から人生を四つのステージに分ける考えがある。その呼称は思い出せないが、第一ステージは生まれてからの二十五年。親の保護のもとで、学習し、心身を鍛え、体験を積み、社会に出る備えをする時期。いわば青少年時代。今の皆さん。第二ステージは次の二十五年で社会人の期間。仕事に就き、結婚し、お金を稼ぎ、家族を持ち、子供を育て、そしてその子供を次の世に送り出す。人生の絶頂期である。ほとんどの大計はこの前半の第二ステージで完成してしまう。思い起こすと、私が知り合ったインド系・中国系の方の多くは、その二〇代前半から四〇代中盤まで、何事かを成すことに誠実に生き、そして驚くほどハングリであった。誰かと同じような人生を送ることは不幸だと考えていた。第一ステージの真っ只中にいる皆さん、「君たちはどう生きるのか?」、大計をもってあなただけのその個性を



開花させていたきたい。ちなみに第三ステージ(五〇〜七五歳)は、家族から離れ、稼ぐ為の仕事からも離れ、完成した個性を一人楽しむ時期になる。ここではもう何もなし得ない。ずばり、人生は何かを成すには短いのである。だからこそ、第一・第二ステージを大切に生きることがインド人は大切にしているのだろう。

先日、ある人の大計を思い出す出来事があった。ラグビーの日本代表があの世界最強のニュージーランド代表に三八一三二とほぼ五分と五分の戦いをしたのである。皆さんからすると「それがどうした?」とでもいうところだろうが、実は、一九九五年のニュージーランド戦では、一七一―四五四で日本は大敗している。当時、ラグビーは日本スポーツ界でも野球に並ぶ花形スポーツでそのトップスターばかりを集めた日本人最強チームがワールドカップで精神を破壊されるような敗れた方をした。試合を見ていて苦しくなった。涙が出た。自分達が信奉していた日本のラグビーは一体何だったのか?

この直後、日本ラグビーの立て直しを任せられ日本の監督に就いたのが平尾誠二という天才ラグーマンだった。才能に溢れ数々の奇跡を成し遂げた平尾さんがジャパンを率いてくれれば次こそは勝てる!直ぐにジャパンは強くなるとみんながそう信じた。しかし、である。ニュージーランドに大敗したあの試合のメンバーだった天才平尾さんが監督就任直後の記者会見で放った一言が、何と「日本ラグビー百年の計」。

ラグビージャパンの原型は、実はこの時に平尾さんが作ったものである。ルールの限界まで外国人選手を入れ(ラグビー発祥の国イギリスでは植民地主義の為、海外移住者が多く、移住先でも代表選手に選ばれる為にラグビー独特のルールが出来上がり、各国が運用している)、リーチ・マイケルのような外国人がキャプテンになる。その時に平尾さんは元ニュージーランド代表だった選手達を日本代表に招集しているが、その一人が何と今のジャパンの監督のジェイミー・ジョセフである。



あれから三〇年、日本代表は信じられない程強くなり先述の通りニュージーランドと互角に戦うところまで成長した。その測り得ない深謀遠慮、まさに大計である。間も無く高校生になる皆さん、どうぞその個性を生き切るような大計を描いてほしい。誰かと同じような人生ではなくあなただけの「天下の大將軍」「海賊王」が何なのか、自分との会話を続けてほしい。

最後になるが、大計を成す為には小計で毎日自分を律する必要がある。ラグビージャパンの練習量は、平尾さん時代から今のジェイミー監督下の代表まで、世界で最も多く、そしてキツイと言われている。華やかで強くなる為には、地道な繰り返し作業がどんな生き方にも必要。授業でも言ったとおり、I'll do my best.の書き換えは、I'll do as much as I can. つまり、最善を尽くす為には量が必要なのである。ラグビーの天才達でさえも世界最大の練習量で備えるのである。さあ、英文練習帳を開いて今日も英文を覚えようではないか(石塚)

英検二級とつちかえば(後編)

① your friend reminds you kindly of your faults, take what he says not only pleasantly but thankfully. Few treasures are worth as much as a friend who is wise and helpful.

<語順訳>
 ①もしあなたの友人が思い出させるのなら/あなたに親切に/あなたの欠点を/受け取りなさい/彼が言うことを/喜んで/ただではなく/感謝して
 ②宝はほとんどない/価値がある/友人と同じほど/賢くて役に立つ
 <全訳>
 ①もしあなたの友人が親切に(→親切にも)あなたにあなたの欠点を思い出させる(気付かせる)のなら、彼の言うことを喜んでだけではなく感謝して受け取りなさい。
 ②賢くて役に立つ友人ほど価値がある宝物はほとんどない。
 (慶應大・東京農工大)

●冒頭から、英文と訳を並べて申し訳ないが、授業で使う構文テキストの解答である。(記号の説明については、割愛します)
 ●さて、英検二級の取り方である。まず英検のための勉強を優先させてはいけない。英検用の問題集は、「虫食い」といつてよく出る問題を集めて作られているので「しっかりとした学力」はつかない。「英語は得意です。二級をもっていますから。」といった、入塾テストではぼろぼろの生徒を何人もみた。
 ●では、どうするか。塾の教材を使って受験勉強をしっかりとやるのである。(詳しいやり方は授業で)
 ① 構文のテキストをやる。(四十番まである。)
 (1) 一番から二十番の音源を毎日きく。(各自スマホに入力済み。)10分かかる。電車の中

で。事前に構造も訳も完全に理解しておく。毎日音読する。二十個全部を一日ではやれなければ構わない。例えば一番と二番を五回ずつ。これは5分未満。家で。

(3) 訳す練習をする。語順訳と全訳。例えば一番と二番を五回ずつ。20分。電車の中や空き時間で。

② 『ターゲット1900』を1000まで。『ターゲット1000』を400まで。

③ 『入門問題精講』を全二十三章のうち十章までを二回やる。

④ 二級の過去問か予想問題を三・四回やる。



●大事なのは、目先を追わないこと。毎日やることである。①②③をやれば、学校の教科書は格段に読みやすくなるし、大学受験につながるし、しっかりとした学力も付く。

●最後に音読について触れておきたい。音読は重要である。非常に重要である。予備校でも音読の大事さを強調する所は多いし、音読部屋を用意している例もある。しかし、生徒の実態について分かっている指導者は極めて少ないと思う。予備校も学校も細かな面談はしないからである。(私のように年間千回近く面談をしていると実態がみえてくる。)実は音読をやって、全く伸びないかわいそうな生徒が世の中には一定数いるのだ。ただ、音読している。一つ一つの発音に気をつかわず、構造にも意味にも何の注意も払わない。これを「単なる発声練習」という。

●面談をして、その生徒がこの状態であることをつきとめ、治療をするのだが、これがまた難しい。こういう生徒は、国語でも社会でも、日本語で書かれたものを音としてのみ読んでることが多く

そこから変えていかないといけない。V模範の偏差値六十ぐらいの学校に通っている生徒でも結構いる。(そういう生徒は、訳もただ丸覚えする。)

●これは、模試や入試のときに、悲劇として現れる。英語の問題文も頭の中で音読をする。何回も何回も。内容は全くつかめない。だから、訳せるようになるための訓練が必要なのだ。英語を英語のまま理解するレベルには、偏差値八十を超えたところからゆるやかに移っていく。(大学受験には間に合わないけれど)

●長くなってしまい、まとまりが悪くなったが、英検二級とつちやえは？

(小林)

意外なところで身につけた大切なこと

創学舎では、「話を聞くときは、顔をあげて聞く」という姿勢を大事にしています。入塾したときは、なかなかできていない生徒も授業を受ける回数を重ねていくうちにできるようになってきます。以前、保護者面談で、「創学舎に入塾してから、学校の授業をしっかりと聞けるようになりました。意外と、学校の先生が、『ここはテストにでるよ!』とか何度も大事な部分を言っている、ということに気が付いたみたいで、テスト勉強に前向きに取り組めるようになった。」という話を聞いて、より一層大事なことだと感じています。

さて、この大事な「話を聞くときは、顔をあげて聞く」という姿勢、私自身はいつたどこで学んだのだろう、なんて思い返してみました。おそらく、「中学生の時の部活動の休憩時間」に学んだのではないか、と思います。

私は、中学時代、ソフトテニス部に所属していました。市大会で優勝できるぐらいの強いチーム

で、顧問の先生は怖いと有名な先生でした。運動部の休憩、というと、水分補給したり、日陰で休んだり、というイメージかなと思います。私たちの場合は、水分補給は基本、自由です。のどが乾いたら、周りを見て抜けるタイミングで、コートの外に出て、水を飲んで、戻ってきます。水分補給とは別に、練習メニューと練習メニューの間に集合が来ると、先生を半円状に囲んで座り、先生の話を聞きます。話の内容は、「歴代の先輩方の練習法や練習に対する姿勢の話」、「他校の上手い選手のいいところ」など。十分から十五分ぐらいの練習をした後、この先生の話を聞く時間があり、また練習し、話を聞き……の繰り返し。顔があがっていないと「顔をあげて聞きなさい」と落ち着いたトーンで注意されます。(砂いじりを始める新入生がいると、先輩たちはそわそわします。)

私は、ビビりで叱られたくないので、顔をあげて聞いていました。そのおかげか、途中で質問されても答えられていましたし、今でも印象に残る話をいくつか覚えています。ここで、人の話は顔をあげて聞くという姿勢を身につけられたと思います。先生が「こういう休憩のとおり方をする学校は珍しい」と話したことがありましたが、ちゃんと意図があったのかと、中学卒業からだいぶ時間が経って気が付きました。

大人になってからもその姿勢はとても大事で、話を聞く姿勢について学生時代にしっかりと身につける機会に恵まれたのはラッキーなことかもしれません。(意外と、できていない大人もいますし、社会人になって会社に入ってから注意されて意識する人もいます。)せっかく創学舎に入塾したからには、勉強法だけでなく、生きていくうえで大切



なことも一緒に身につけて成長していきましょう。(富田)

集団知 27

●集団知(知っている、知らないに関わらず、集団として受け入れた価値観・判断)の続きである。

●英語の授業でこんな質問が出た。「modest」の訳の「謙虚」を何と読むんですか?」衝撃が走った。しかも二つのクラスで。勿論、質問しないよりはいい。しかし、このことは、ある悲しい事実を象徴している。生徒は単語の訳を覚えようとしていい。しかし、漢字が読めなくても平気でくり返す。読めないのだから当然意味もわからない。こういう生徒は単語そのものも発音できていないことが多い。私は、日本史も教えているが、やはり読めないのに意味も分からないのに答だけを覚えようとする生徒も時々見かける。

●勿論、本人たちは一生懸命である。しかし、いくらこのままやっても成果を上げることが難しいだろう。勉強で伸びるためには、まず言葉に対するこだわりが必要だ。どの科目をやるにしても「読めない。意味が分からない言葉が気になるようになる」といけない。そして調べる行為が伴わないといけない。

●この所ずっと、記憶の仕方について書いてきて、前号で英単語を空き時間で、二〇〇語とか五〇〇語とか回す生徒が何人もいると紹介したが「その単語が発音できて訳の漢字が読めて意味が分かる」が大前提である。勉強の習慣化において、この大前提をクリアすることが実は最重要だが、教える立場の人も親もそして本人も気付いていないことが多い。(以下、次号)

(小林)